青梅市文化財ニュース　第　８１　号

平成　６年　７月１５日

発行　青梅市文化財保護指導員連絡協議会
青梅市郷土資料室
（青梅市駒木町 1-684 ℡0428-23-6859）

杉平遺跡について

青梅市梅郷１丁目にある。杉平遺跡において、宅地開発に伴う発掘調査が平成６年４月１日から平成６年５月１４日まで行われました。

この遺跡は市内に点在する遺跡の中でも大変大きいもので、古くからその存在が知られており、何回かお調査もなされ、多くの遺物が発見されています。散布面積においては１５，０００㎡にも及ぶもので、山側の段上では縄文時代の中期の、そして、段下では縄文時代の後期の遺物が散布しています。

今回は河岸段丘の最上段、山裾の東側の一部分が該当の地域となりました。この調査区域は、表面採取にある遺物の収穫として、鏃（やじり）や石斧などが拾うことができましたが、実際に発掘をしてみるとつぎのような発見がありました。

生活の痕跡を表すものとして、住居跡８基、土壙（落とし穴や墓の穴）８４基、石や土で作られた道具類などでは、打製石斧、磨製石斧、鏃、石棒、縄文式土器等が約５００点ほど出土しました。

住居跡においては、８基のうち、山側に位置する２基は縄文時代中期中頃のもので、点在する残り６基は縄文時代中期後半のものでした。北西側に位置する住居跡は、一旦構築した痕跡の上に重ねて大きさの違う住居を作成した状態が良くわかるものでした。また、縄文時代のうち、ある限られた時期だけ住居の床面に自然石を敷き詰め、丸に長方形をつけたような形（柄鏡形）を作る時がありますが、今回はこのような敷石住居跡も含まれており、狭い面積の中で色々なものが発見されたこととなります。

土壙においては、この住居跡一帯に散在し、特殊なものとして、伏甕（ふせがめ）を持つ土壙が２基と集石土壙１基発見されました。共に墓の穴と考えられ、伏甕を持つ土壙に置いては、穴を掘った中に、１つの大きな縄文土器（曽利式土器）の甕を上からかぶせるような状態にしたまま発見されました。集積土壙では、握りこぶし大の砕いた石をその穴をふさぐかのように集めた状態で発見されました。特にこれらのものは、なにかのお呪いをも含めてのものだったのかも知れません。

以上の内容が、今回発掘調査を行った際の主な結果です。

詳細についてはこれからの報告書などの結果を待つとし、私たち祖先のすばらしい技術を、復原された本物の土器に接してみることにより、味わうことも価値あるものと思います。

（文責　鈴木）